第3回安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討委員会　議事録

〇日時　令和8年 10 月 7 日(水)　午前10時 00 分
〇場所　安来庁舎　201 会議室
〇出席者等
（委　員）余村　望、樋野　義之、細田　浩、上田　恵美、門脇　純一（欠席）、遠藤　健志（欠席）、角　陽子、越野　亘、山根　幸夫
（事務局）子ども未来課長　加藤　直子、子ども未来課係長　山本　浩志、子ども未来課主幹　奈良井　ゆかり
（傍聴者）2 名

〇次第
1. 開会
2. 議　　題
（1）保護者アンケート結果分析について　・・・・・資料1
（2）職員アンケート結果分析について　・・・・・資料2
3. その他
（1）あり方検討委員会での最終提案について　・・・・・資料3
（2）今後の進め方について　・・・・・資料4
・10月27日　市内公立保育施設視察　・・・・・資料5
（3）安来保育所の認定こども園化について　・・・・・資料6
（4）意見交換
4. 閉会

〇内容
1. 開会

2. 議題
(1)保護者アンケート結果分析について
資料1により事務局より説明
アンケート回答率 82%
保護者アンケートから見えてくるのは、保護者は現状維持に固執しているわけではなく、むしろ少人数による弊害や将来の小学校接続への不安を抱えており、「子どもの成長環境が良くなること」「小学校への接続を配慮した接続」を条件として、再編の必要性を前向きに受け止めている。
一方で、再編に際して子どもへの影響を懸念する声が多く、行政には、具体的な「保育の質の向上策」や「移行期の安心材料」等を配慮した再編計画の推進を期待している。

【意見交換・質疑】

（委員）
　アンケートの結果から、保護者は自分の家から近く行きやすいところで、それなりの人数や質がある園が理想的で、子どもが減っている状況の中で行われたアンケートでは、質が上がるのであれば賛成するというイメージだと受け取った。
　事務局からの説明にもあったように、具体的な質の向上の明示が非常に重要になってくると思っている。例えば再編することになり、最初は 100%の能力であったとしても、5 年・10 年経って結局どんどん人数を絞ったりして質が下がっていくようになるのは良くないと思う。再編するというのであれば、ある程度の、例えば数的根拠として今の配置基準以上の人数を配置するとか、定員数をこれ以上下げませんというような何かはっきりしたものを明確に打ち出した上で、それをぶれないようにやってもらわないと、今の保護者さんが再編に賛成したことに対して裏切る形にならないようにしなければいけないと感じている。
　質の向上がニーズだと思っているので、それに答え続けていくような計画にすべきだと思う。

（委員）
　委員と同意見である。アンケートを見た時に、通園距離と保幼小接続というところで言うと 1 校区に 1 園がマストだろうと感じた。ただ、赤屋や比田など本当に離れたところにある施設では校区に 1 園というのも無理があるのではないかと感じた。
　また、配置基準の見直しは難しいところなのかもしれないが、質の向上というところであれば、たくさんの保護者が思っている事でもあるので人員確保と質の向上をしっかり謳っていくことが大事ではないか。
　自由記述で公立と私立のギャップを感じるという意見があったので、小学校担任の肌感覚を聞いてみた。公立の人数が少なく私立が多いことはいい面と悪い面が両方あるということを言っていた。公立では人数が少ないことでより多く目をかけてもらえて支援が行き届く反面、少し受け身の部分が出てくる。私立は大人数の中でもまれてたくましく育っている。賑やかではあるがたくましい。公立か、私立かというより人数の問題ではないかと思う。

（委員長）
　再編の前提が、質の担保・向上であり、そのための環境づくりをやろうということになってくる。具体的に市で本当に対応の準備ができるかどうかが大事になってくる。職員数や保育環境など物理的な所も含めて、覚悟をもってやっていくことが必要。

（委員）
　難しさはあると思うが準備がしっかりできれば保護者も安心できると思う。
　公立施設は本当に児童の人数が少ない。決してそれがいいと思ってやっているわけではないが、そうせざるを得ない。3・4・5 歳児が 1 つのクラスでやっているが、難しさがあり担任も苦しい中で保育をしている。そこで育つものもあるが、3 歳児と 5 歳児が同じ生活ができているかどうかということを考えると難しさがあ

る。再編で年齢別の保育の確保ができる事が保護者の安心につながると思う。質の担保については職員も努力をしていかなければならない。

（委員）
　自園では意識的に異年齢交流を行っている。少子化で一人っ子が多かったり、近所にも子どもが少ない状況にあるため異年齢での交流が少なくなっている。しかしやはり同年齢の子どもが 5 人以上いるようにしている。異年齢交流と同年齢保育をうまく組み合わせている。
　質の向上の面だと、現状の子どもたちの様子から保育士の配置人数は無理があると感じる部分がある。これから公立が国が決めている人数よりも余裕を持った人数で再編を考えてもらえると、公立施設に通う子どもたちにとっても幸せだし、今度は私立も頑張っていこうという相乗効果もできていくのではないかと思う。

（委員）
　保育の質の向上をかみ砕いていくと集団生活では社会性を育てることができるという話になるのではないか。異年齢集団の話で、小学校の複式学級で勤務したことがあるが、10 人くらいの学級で上の学年の子どもは下の学年の子どもの世話をするという意識があり、下の学年の子どもは大きくなったら同じようにしなければいけないと思うようになっていった。小学校と幼児の違いもあるとは思うが異年齢での保育も否定されるべきではないと思う。

（委員長）
　保護者アンケートやこれまでの意見では 1 学年 5 人以上、20 人くらいが好ましいしいということである。職員配置について、現状の公立職員を今の方向性で再編した場合、理想的な保育士配置ができる人数になっているのか。

（事務局）
　どれくらいの施設数に再編するかにもよるが、子どもの数に合わせた再編をすると閉まる施設ができ、閉園となった施設の職員は他の施設へ行ってもらうことになる。そうなればある程度今よりは充実した体制が取れるのではないか。
　先ほど委員から将来的な意見をいただいたが、何年か先までの約束ができれば一番いいとは思う。ただ、社会情勢が今後どのように変わっていくのかが不透明であり、子どもの数も更に減っていく可能性もある。そうなると、何年かに一度はこのような検討会を立ち上げ、その都度状況に合った検討を行う必要がある。今の段階で、10 年後にはこうするといったようなところまでは決められないと思っている。

（委員長）
　第 2 回目の検討会で令和 20 年までのデータを示してもらったが、子どもの数が現在と比べて 56％程度まで減少するということで、それを見通して計画しなければならない。

(2)職員アンケート結果分析について
　資料 2 により事務局より説明
　アンケート回答率 91%
　現場の職員からは、現状の人数や今後の状況を鑑み、「これ以上の少人数・小規模な環境の維持は、子どもたちの社会性や集団としての育ちの観点から課題がある」という声が多数である。
　子どもの最善の利益を第一に考えるならば、少子化に対応するため、一定の規模を持った施設への再編を進め、子どもたちが十分な仲間と出会い、切磋琢磨し合える環境を構築していくことが必要と考えている。しかし、単なる効率化としての統廃合ではなく、「手厚い職員配置」や「丁寧な移行支援」を伴った質の高い再編を実施することを必要だと考えている。

【意見交換・質疑】
(委員)
　幼保職場の職員と話すことが多く、この委員会が立ち上がる前から色々な意見を聞いているのでそれも伝えさせてもらいたい。
　前々から子どものことを思えば小規模人数よりある程度の人数がいた方がいいという意見があり、早く施設再編すればいいというようなことを言われる方も多かったと思う。
　一方、現状の職員配置については、非常にカツカツでやってるというのが今の公立の現状である。特に小規模園が多いというのも 1 つの要因だと思うが、毎年職員数が足りないという声が常に上がってきている。
　先ほど保護者アンケートの結果にもあったが、今回質の向上の話がある中で、施設を集約する中で配置についてもう一度見直してほしい。例えば担任を持つ人数が変えられない状況であれば、補助的な職員がつくなど、色々やり方はあると思うが、これを機に考えていただけるとありがたい。先ほど言ったとおり、普段から保育現場の皆さんはそういう思いを持ってやっている。現状では職員配置がカツカツであるというところなのでそういった部分を伝えさせてもらった。

(委員)
　学校現場でも働き方改革に取り組んでおり、市から補助的な職員の配置もある。妻が 10 年くらい前まで保育士として働いており、家での持ち帰りも多くいろいろな仕事を家でやっているのをみていた。人が増えることで負担が減らしていかないといけないと思っている。
　また、質の担保として継続的に研修を受けることも大切だと思う。最近グレーゾーンだったり支援が必要な子どもが増えてきていることもある。学校では子どもが下校した後に研修を受けたり、研修のために出張に行ったりしている。
　自由記述の中に自然災害への対応や防犯についての意見があった。人的な面や建物の修繕も考えていかなければならない。早朝になにかあった場合に早出の職員だけが責任を負うということになったりすると良くない。

（委員長）
　再編と働き方改革は今回の再編計画では一体としたものでよいのか。難しいかもしれないが。

（委員）
　保育の現場は朝から夕方までずっと子どもがいる。第一は子どもに目を向けることだが事務仕事等たくさんある。基本的には持ち帰りのないようにと思っている。そういった状況なので、働き方や配置を考えていかないといけない。再編は良い機会なので、覚悟を持って改革を一歩踏み出せたら良いと思う。

（委員）
　小中学校で教員をしていた経験では、中学校は担任と副担任が配置されているので片方が休んでも任せられるが、小学校では担任の代わりがいないため、体調が悪くても無理して出勤している。保護者アンケートの結果からは質の向上についての要望があるが、保育士が増えると質は向上すると思う。保育者の目が増えることによって見落としが減ることが期待できる。また、保育士も体調が悪くても無理して出る人が多いと想像されるが、人件費の問題もあると思うが人が増えればそういったこともなくなるのではないか。
　小学校では TT（TeamTeching）で授業の質が向上している。保育では更に人数を増やして TTT くらいでやってもいいのではないかとこれまでの経験から肌感覚で感じている。保育士が増えることで必ず質は向上すると思う。

（事務局）
　保育の職員配置について、保育士が働きにくいと感じているのは、年度当初に保育の体制整備を行うが、年度途中での入所対応や支援が必要であることがわかったりして状況が変わっていく。その都度必要な保育士が確保できないということにあるのではないか。今回の再編により園が統合した場合には配置について検討できるのではないかと思う。人件費のこともあり今の段階ではっきりはできないが、その部分については解消できるので働き方の改革もできるのではないか。

（事務局）
　一般の事務職に比べて保育士、調理師は休みを取る時に代わりの人がいないと休みが取りにくいという話をよく聞いている。必要な休暇が取れる環境がベストだと思っている。

（委員）
　保育士は元々足りていない上に退職する人もいる。休みが取りにくいからという理由もある。それで更に現場が回らなくなる。自分の子どもの発熱で休みますと言われると、もちろん許可はするがやはり心の中ではどうしようと思うこともある。代わりに園長や副園長が入るが、そうすると今度は園長副園長の仕事が後回しになるので本当に厳しい。
　職員アンケートの中で、離乳食から 5 歳児まで 1 人の調理師が作っているという

意見があり、休みを取る時にはどうしているのだろうと思った。

（委員長）
　結局は再編の検討の中で保育士の確保を定着をもう一つのテーマとして考えていかなければならない。再編のために数合わせだけしても、結局中身が全然良くなってないじゃないかという批判も出てくると思う。先ほど委員の発言にもあったように、国が定める基準ではなく安来市の基準としてこれだけの環境を整えるというような部分を、腹を据えてお金をかけて改革をしていく明確に出していき体制作りを強化していくということを本委員会の提案として押さえておきたい。
　また、公立と私立の体制の違いも当然あるのではないかと思う。私立はそれぞれ特色をもった保育を行っている。公立と私立の協力体制が必要ではないかと思うがどうか。

（委員）
　難しいのではないかと思う。ただ、先ほど委員長がおっしゃった国の基準とは別の安来市の基準というところであれば、公立私立にかかわらず、安来市は子どもに対して、こうしていくという方針を示してもらうと良い。アンケートに安来市の未来が見えないというような、ちょっと否定的なことが書いてあったが、安来の子育てはいいぞと思ってもらえるような工夫していく必要があるのではないか。そこでやはり私立も努力していかないといけないと思う。

（委員長）
　どういうことをやれば好循環になるのか。これまでも県の方でも 20 年 30 年保育士の確保については取り組んでいて、どうしたら成果が出るかと検討してきたが、残念ながら悪循環になっているというのが現状である。

（事務局）
　2 年前から幼児教育アドバイザーの制度を取り入れた。園長所長経験者により支援が必要な子どもの保育に関する支援を行う想定で導入したが、今は私立から保育全体についての相談を受けている。市の意図しているところではなかったが、すごくいい効果があると思っている。それまで公立私立はお互い形態も違うので交わる部分が少なかったが、市がイニシアチブを取ってこういった協力をしていくことが保育全体の質を上げることができるのではないかと思っている。もし枠組みの構築や協力体制が取れるようであれば、そういったことも検討できるのではないか。研修なども一緒にできるよう考えていけたら良い。

（委員長）
　現在公立と私立の共同の研修などはあるのか。

（委員）
　行政から別団体主催の研修の案内はある。昔は公立と私立の合同研究会があったが、今はなくなった。

（委員）
　合同研究会がなくなり、お互いのことがわからなくなってしまっているのが現状。

（委員）
　幼児教育アドバイザーは良い機会だと思っている。一緒に学ばせてもらっているのはありがたい。

（委員長）
　具体的な再編にあたっては現場の業務分担が必要になってくる。これについては現場で検討していかなければ進まない。そういったところも踏まえたスケジュールを組む必要がある。

（事務局）
　再編の方向性が決まればもっと具体的な話ができる。

（委員長）
　物理的な環境整備も伴う再編になる。BCP、事業継続計画もふまえて、災害時の避難所などとしての機能も必要ではないか。

（事務局）
　社会福祉施設なので避難計画は既に策定している。より施設的に安全な形での再編は考えていく要素のひとつである。

（委員）
　実際に新しい施設を建てるのか、それとも今の施設を改修するのか。そのあたりのイメージはあるのか。再編の方向性が決まらないと難しいとは思うが。

（事務局）
　これから施設をご覧いただく予定だが、どの施設も非常に古くなってきており、再編したところを全部新しくできるかというと現実的には難しいと思っている。
　また、この先更に児童数が減っていく可能性も増える可能性もあり、それを見定めていかなければならない。新しく建ててしまうと、結局それに合ったことしかできなくなってしまう。どちらかというとイメージ的には、既存の施設を手直しするなどして、有効活用していくようなところで進めていきたい。
　新しい施設ができた頃にそこに入るお子さんがいなくなっては意味がない。今は変化が大きく、きちんと将来的なところを踏まえないと、簡単に新しく建てるとは言えない。ただ担当の気持ちとしては新しいものを 1 つ建ててここに皆さん来てくださいと言いたい気持ちもあるが、そこまで言うのは難しい。

（委員長）
　それではまとめると、職員も保護者と同じ方向を向いているということになる。

アンケートを見れば再編については前向きに検討している。

3. その他
（1）あり方検討委員会での最終提案について
資料3にて事務局より説明
具体的な施設の枠組みについては、どの施設に集約するかまで検討していく。

【質疑・意見交換】
（委員長）
保幼小の連携と合わせて考えなければならない。保護者も小学校との接続や地元に施設がなくなることを心配している。小学校の再編計画はもうあるのか。

（委員）
小学校の再編については確定したスケジュールがある。保育施設の再編についてはいつごろ市民にアナウンスするか決まっているのか。

（事務局）
あり方検討委員会を立ち上げたことについては市報でお知らせしている。検討委員会で話した内容については議事録もホームページに掲載している。
今年度年度末までに検討委員会で出していただいたものを市長に報告するがそれで決定ではない。その後案をもって保護者に説明したうえで、最終的にはこうなるというアナウンスを行うことを考えている。来年度にならないと正式な発表はできない。令和 10 年度の入所募集までには皆さんのご理解をいただいた上で公表する形になると思っている。そうしないと保護者さんが園を選ぶ上で迷ってしまう。

（委員）
再編を踏まえた上で令和 10 年度の入所申込ができるようにする。

（委員長）
再編までのスケジュールがタイトではないか。

（委員）
令和 12 年度に向けてやるのか、早ければいいということであれば令和 11 年度に向けてやるのかということになる。

（事務局）
もし小規模園で早く一緒になりたいという考えがあれば、保護者と地域の理解が得られれば3年を待たず前倒しで進めていく可能性もある。

（委員長）
段階的な進め方もあるのか。

（委員）
　幅を持たせたやり方がいいと思う。検討会では最低でここまでは令和何年度までにと決めた上で、地域や保護者との対話の中で前倒しすることもできるのではないか。学校も地域との話の中で前倒しして統合した所もある。少し幅を持たせた書き方をしたい。

（委員）
　小中学校の再編は令和 13 年度までとなっている。保育施設もそれに合わせて 13 年度ということか。

（委員長）
　今回は現在の保護者へアンケートを行ったが、4 年後は違う保護者が対象となる。本質的な所を押さえながら個別の対応も必要になってくるかもしれない。

（委員長）
　最終提案の方向性についてはこれでよいか。

【異議なし】

（2）今後の進め方について
　資料4、資料5により事務局より説明
　地域説明会での意見をまとめて委員に提示予定。1 月以降に議員説明と子ども子育て支援会議にて諮ったうえで最終決定を行い市長に説明する。
　最終的にどの施設に再編するかを決めてもらうことになるため、施設の視察を計画した。認定こども園比田については時間的な面と施設集約より継続か統合かの 2 択になると思うので今回は対象外とした。また、島田こども園についても幼稚園型で 3 歳児以上の施設であり、継続か統合かのどちらかになるため視察対象から外している。

【質疑なし】

（3）安来保育所の認定こども園化について
　資料6により事務局より説明

【質疑なし】

（委員長）
　次回以降は具体的な素案づくりに入っていく。言い残したことはないか。

（事務局）
　もし現時点で具体的な案があればお伺いしたい。今後は素案を見てもらい、施設も合わせて見てもらったうえで、意見を聞きながら理想に近づけていきたいと思う。

（委員長）
　この件について私立施設との協議はするのか。

（委員）
　あくまで公立施設の再編なので、今は考えていない。本検討会に私立代表として委員にもご意見をいただいている。

次回開催予定：令和 8 年 11 月 17 日（火）　午前10 時 00 分
安来庁舎　201 会議室

（事務局）
　これまで平日の日中に開催してきたが、仕事等で出席が難しい人もいるため夕方開催も検討したい。開催時間については改めて連絡する。